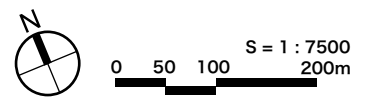


6-1 面影橋エリア



神田川沿いの低地に位置するエリアです。江戸時代には面影橋周辺は、歌川広重の「名所江戸百景」にも描かれるほど、風光明媚な田園風景が広がっていました。現在は、神田川沿いの桜並木と区内唯一の都電が通る場所であり、潤いと動きのある景観が特徴となっています。

景観特性



1. 都電と神田川を望む魅力的な景観



面影橋からは、神田川の流れと桜並木を眺めつつ、都電の走る様子を見ることが出来ます。また、高戸橋交差点付近からは、奥にサンシャイン60、手前に走る都電を眺めることができます。

2. 神田川の桜並木



神田川はコンクリート三面張りの巨大なU字溝ではありますが、川面にあふれ出す桜並木が見事な景観を形成しています。また、遊歩道にはみどりが連続しており、心地よい歩行者空間となっています。

3. 神田川と並走する新目白通り



神田川は緩やかに曲がりながら流れている一方、目白通りは直線的に通っています。そのため、両者が接しているのは面影橋付近のみであり、その他の場所では新目白通り沿道の高層建築物で隔てられています。

都電と神田川を活かした潤いと動きのあるまちなみへ

歌川広重の「名所江戸百景」にも描かれた神田川と区内唯一の都電の走る景観の、潤いと動きを感じられるまちなみをつくる。

景観形成の方針

1. 走る都電、流れる神田川を感じられる

景観形成の考え方

新宿区内では唯一の、都電が走る風景をエリアの景観資源として活かす。また、神田川の流れの様子も容易に眺められるようにする。

具体的な方策

- 都電の眺めを阻害するような工作物等は設置しないようにする
- 遊歩道の垣・さくは、高さを抑えるか、開放的なものとする
- 遊歩道や橋の整備にあたっては、神田川を眺めるたまり空間の設置等を検討する

動きのある景観をつくる



都電や神田川への眺めを妨げない

2. ゆとりと潤いのある河川景観をつくる

景観形成の考え方

遊歩道が整備されているこのエリアでは、遊歩道と周辺の建築物が一体となってゆとりと潤いのある河川景観をつくる。

具体的な方策

- 河川沿いの建築物は河川に対して正面性をもたせる
- 橋や対岸からの見え方に配慮し、特に桜並木の上から見える部分の色彩は低彩度のものとする
- 色彩や素材は、水やみどりと調和したものとし、特に彩度の高いものは避ける
- 直接遊歩道に接する場所では、設備機器等は見えないよう植栽等で修景する
- 遊歩道側は可能な限り空地をとり、積極的に緑化を行う
- 遊歩道の垣・さくは神田川への眺めに配慮した色彩や素材とする（素材は、自然素材を用いる など）
- 河川周辺の照明は落ち着いた色温度・輝度とし、河川沿いの光が連続性をもつように配慮する



周辺と一体となってつくられる河川景観

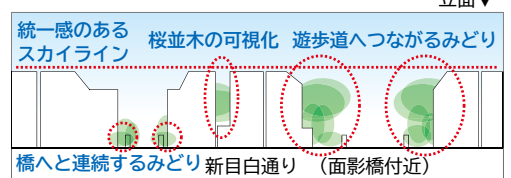
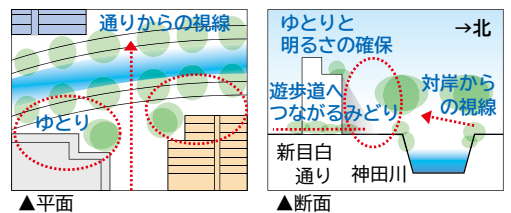
3. 神田川のみどりと調和した景観をつくる

景観形成の考え方

新目白通り沿いにおいて、神田川のみどりと調和し、また、神田川を感じられる景観をつくる。

具体的な方策

- 新目白通りから神田川を眺めることができるような建物配置とする
- 色彩や素材は神田川のみどりと調和した落ち着いたものとし、特に、彩度の高いものは避ける
- 壁面の分節化を図り、長大な壁とならないよう配慮する
- 特に面影橋周辺では、神田川のみどりと連続した緑化を積極的に行う



神田川と調和した建築物とみどり

6-2 早稲田大学周辺エリア

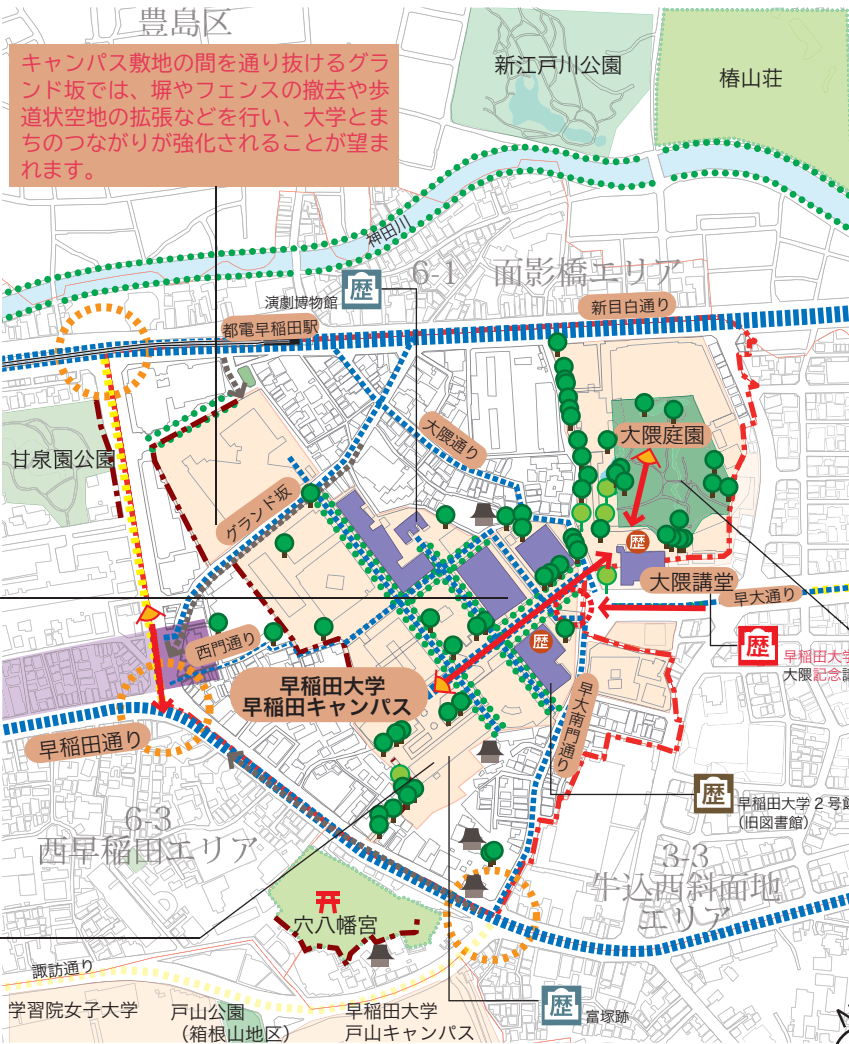


明治15(1882)年に東京専門学校として創設された早稲田大学とともに、その周辺も発展してきました。大正5年発足の早稲田商店会をはじめ周囲には7商店会があり、活気にあふれています。また、昭和2(1927)年落成した「早稲田大学大隈記念講堂」は、大学だけでなく周辺地域のシンボルとなっています。

景観特性



新3号館は、主に政治経済学部の校舎として使われ早稲田キャンパスの象徴となってきた旧3号館の外観を再現しながら高層棟を組み合わせる形で平成26(2014)年に建替えられました。



- 【凡例】
- 眺望点
 - 視線方向・重要な軸線
 - 神社
 - 寺
 - 地域を象徴する建築物
 - アイスストップ
 - 公園
 - 主な保護樹木 (区みどりの条例)
 - 重要なみどり (一部保護樹木を含む)
 - 連続するみどり
 - まとまったみどり
 - 景観上重要な道路
 - 幹線道路
 - 坂道 (下から上)
 - 景観上重要な交差点
 - 大規模な敷地
 - 江戸時代の馬場
 - 崖線
 - エリア境界
 - 歴史的な景観の保全が必要な建築物

キャンパス敷地の間を通り抜けるグランド坂では、塀やフェンスの撤去や歩道状空地の拡張などを行い、大学とまちのつながりが強化されることが望まれます。

- 【景観資源】
(国指定重要文化財等)
- 歴史に関わる資源

(都指定文化財等)

 - 歴史に関わる資源

(区指定文化財等)

 - 歴史に関わる資源

9号館の建替えにあわせた、開放的な広場の創出や、早稲田通りからのアクセシビリティ向上が望まれます。



明治時代には大隈重信の邸宅がありました。広い芝生と池のある和洋折衷の庭園です。



1. 大学とともに歩んできた商店会



大学の周辺には7つの商店会があり、大学の発展とともに商店会も発展してきました。学生街の賑わいを、今後もより一層強化していく必要があります。

2. 早稲田大学の景観



その広大な敷地により、大学自体が周囲の商店会とともに一つのまちとなっています。周辺地域との調和を図るために、その敷地際の地域に対する配慮が必要です。

3. 地域のシンボルである大隈講堂



大隈講堂は、大学だけでなく地域のシンボルとなっています。温かみのある茶系を基調とした色彩や、建物高さや周囲との緑地の関係等により、圧迫感を与えることなく風格ある建築物となっています。国の重要文化財です。

早稲田大学と周辺商店会で作る活気あふれるまちなみへ

早稲田大学と周辺商店会がともに発展しつくれた活気あふれるまちなみをさらに発展させるとともに、大隈講堂や大隈庭園からの眺めを保全する。

景観形成の方針

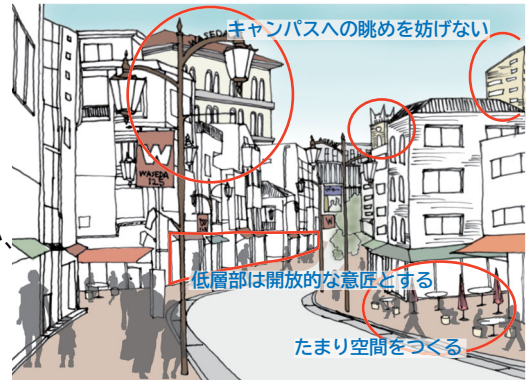
1. 早稲田大学と周辺商店会が一体となった 学生街の景観をつくる

景観形成の考え方

早稲田大学とともに発展してきた周辺商店会と大学が一体となった賑わいあふれる景観をつくる。

具体的な方策

- 壁面の位置を揃え、周囲と調和を図る
- 早稲田通り沿いや大隈通り沿いでは、間口は現在の規模を継承するか、もしくは、分節化を図る
- 低層部は賑わいを感じられるような開放的な意匠とする
- 歩道からつながりを持った滞留空間を創出する
- 低層部の照明や街灯によって連続した賑わいある夜間景観を創出する



早稲田大学と周辺商店会が一体となった景観

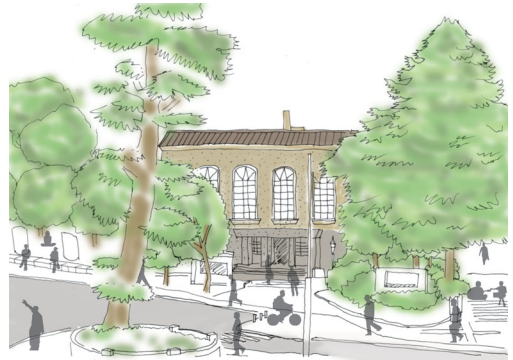
2. 早稲田大学がまちに溶け込んだ景観をつくる

景観形成の考え方

大学と地域とを隔てる塀を開放的なものにし、大学の持つ活気あふれる景観を地域に溶け込ませていく。

具体的な方策

- 敷地境界の垣・さくは、高さを抑え、開放的なものとする
- 擁壁は周囲と調和し、圧迫感を与えないものとなるよう工夫する
- 敷地境界部においては、生垣などにより積極的に緑化を行う
- 敷地内はゆとりのある歩行者空間や滞留空間を創出する配置計画とし、ベンチ等のストリートファニチャーの設置を行う
- 早稲田大学のまとまったみどりの保全・活用を図る



早稲田大学がまちに溶け込んだ景観

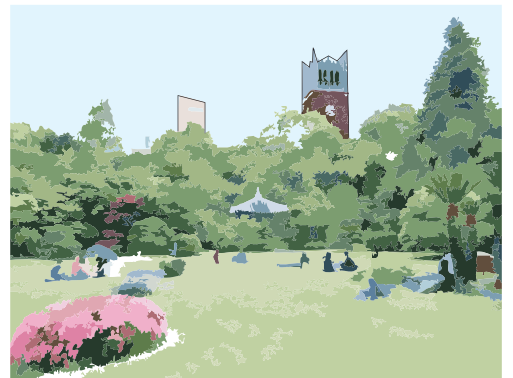
3. 大隈講堂を中心とした落ち着いた景観をつくる

景観形成の考え方

エリアのシンボルとなる大隈講堂の眺めを保全するとともに、周囲も一体となった落ち着いた景観をつくる。

具体的な方策

- 大隈講堂への眺めや大隈庭園からの眺めに配慮した、落ち着いた形態意匠及び色彩とする
- 大隈庭園のみどりを保全する
- 大隈庭園周辺では、積極的に緑化する
- 大隈講堂への眺めを阻害する場所については、屋上広告物は設置しないようにするか、建築物と一体的に計画し、周囲からの見え方に配慮する



シンボルとなる大隈講堂を中心とした落ち着いた景観

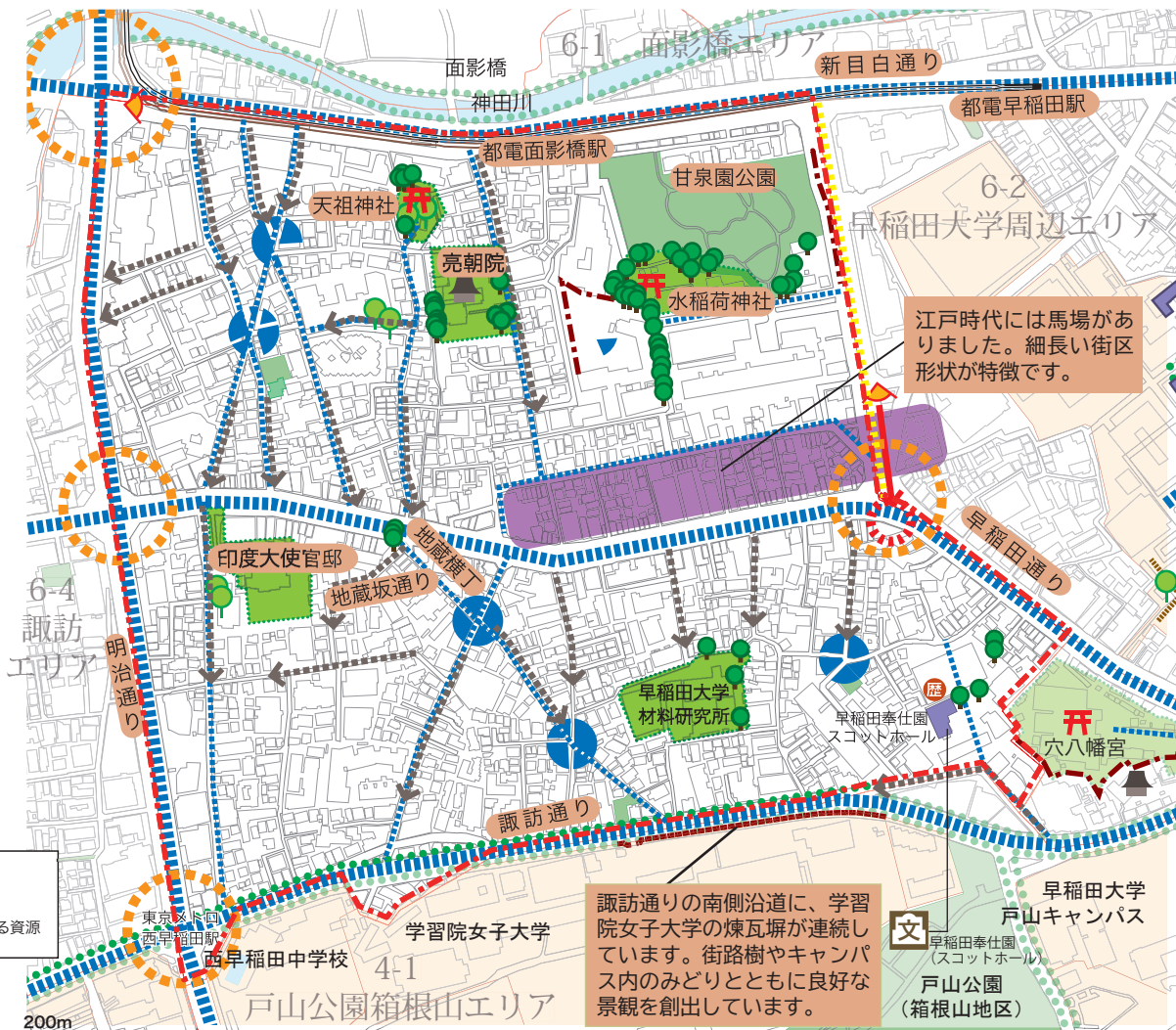
6-3 西早稲田エリア

高田馬場駅と早稲田大学をつなぐ早稲田通り沿いには、古書店が並び学生街の雰囲気漂わせています。また、江戸時代には徳川御三卿のひとつ清水家の大名庭園であった、回遊式日本庭園「甘泉園」があり、その由緒あるみどりで周囲に潤いと落ち着きを与えています。また、エリアの西側には古くから残る道路が斜めに通っているため、鋭角の特徴的な敷地割りが生じています。



景観特性

- 【凡例】
- 眺望点
 - 視線方向・重要な軸線
 - 神社
 - 寺
 - 地域を象徴する建築物
 - アイストップ
 - 公園
 - 主な保護樹木 (区みどりの条例)
 - 重要なみどり (一部保護樹木を含む)
 - 連続するみどり
 - まとまったみどり
 - 景観上重要な道路
 - 幹線道路
 - 坂道 (下から上)
 - 不整形な交差点
 - 景観上重要な交差点
 - 大規模な敷地
 - 江戸時代の馬場
 - レンガ塀
 - 崖線
 - エリア境界
 - 歴史的な景観の保全が必要な建築物



S = 1 : 6000

【景観資源】
(都指定文化財等)
文 文化に関わる資源

1. 学生街を感じるまちなみ



早稲田通り沿いには、古書店や飲食店などの小規模な店舗が建ち並び、学生街を感じさせるまちなみとなっています。

2. 不整形な敷地と高低差の大きい地形



エリア内には、寺社の参道であった道など古くから残る道路が多数存在します。その多くは、エリアを斜めに横切っているため、鋭角の角地が生じています。また、北側に向かって下る斜面地のため、坂や階段も多く変化のある景観となっています。

3. 点在するまとまったみどり



道路からはなかなか見えないものの、まとまったみどりが点在しています。水稲荷神社や印度大使官邸などが挙げられます。中でも、特に広大な敷地となっているのが甘泉園公園です。斜面地の地形を上手く利用した、回遊式日本庭園となっています。

古くからの学生街と良好な住宅地が共存するまちなみへ

古くからの学生街であった雰囲気を活かすとともに、まとまったみどりや起伏の大きい地形を活かした景観をつくる。

景観形成の方針

1. 活気・落ち着き・みどりが感じられる、それぞれの幹線道路の特徴を活かした景観をつくる

景観形成の考え方

エリアを貫く幹線道路沿いでは、それぞれの特徴を活かした景観形成を図る。

具体的な方策

- 早稲田通り沿いでは、古くから続く活気ある学生街の景観を活かし、間口は現状の規模を継承するか、もしくは分節化を図る
- 早稲田通り沿いでは、低層部を賑わいを感じられるような開放的な意匠とする
- 諏訪通り沿いでは、学習院女子大学の煉瓦塀の雰囲気と調和した、落ち着いた形態意匠および色彩とする
- 新目白通り沿いでは、神田川のみどりと調和した落ち着いた色彩とし、特に、彩度の高いものは避ける



早稲田大学周辺の古書店（早稲田通り）



学習院女子大学のレンガ塀（諏訪通り）

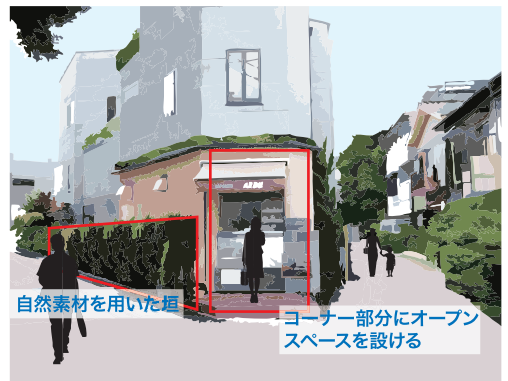
2. 不規則な道路基盤と起伏の大きい地形を活かした住宅地景観をつくる

景観形成の考え方

エリア内に多く存在する鋭角の交差点や階段、坂道、路地などを、歩く人に快適なみどり豊かな景観とする。

具体的な方策

- 鋭角の交差点に面する角地では、まちなみのシンボルとなることを考慮した形態意匠とする
- 鋭角の交差点に面する場所では、積極的に緑化を行う
- 垣・さくなどは生垣や自然素材のものとする
- 擁壁の上部の垣・さくは高さを抑える
- 擁壁は周囲と調和し、圧迫感を与えないものとなるよう工夫する（壁面緑化を行う、自然素材を用いる、分節化を図る など）
- 道路沿いには空地をとり、植栽帯を設ける



鋭角の交差点の角地を活かした店舗

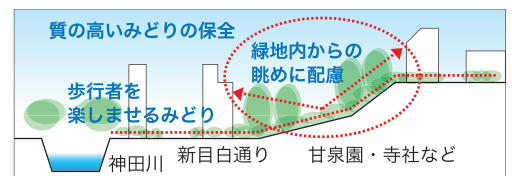
3. まとまったみどりを活かした潤いあふれる景観をつくる

景観形成の考え方

エリア内に点在する甘泉園や寺社、公園等のまとまったみどりを保全する。また、周囲のみどりの連続性に配慮し、みどり豊かな景観をつくる。

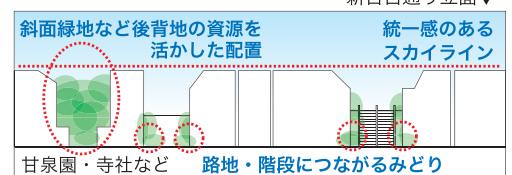
具体的な方策

- 既存樹木を保全する
- 甘泉園からの眺めに配慮した、落ち着いた形態意匠および色彩とする
- 色彩や素材、照明などは、みどりと調和した落ち着いたものとする
- 神田川とのつながりを感じさせるような連続するみどりを設ける
- 大規模な計画では、まとまったみどりを創出する
- 中・小規模の計画では、道路沿いの緑化を積極的に行う
- 甘泉園からの眺めを阻害する場所については、屋上広告物は、設置しないようにするか、建築物と一体的に計画し、周囲からの見え方に配慮する



▲断面

▼新目白通り立面



甘泉園・寺社など

路地・階段につながるみどり

背後地への配慮と資源の活用

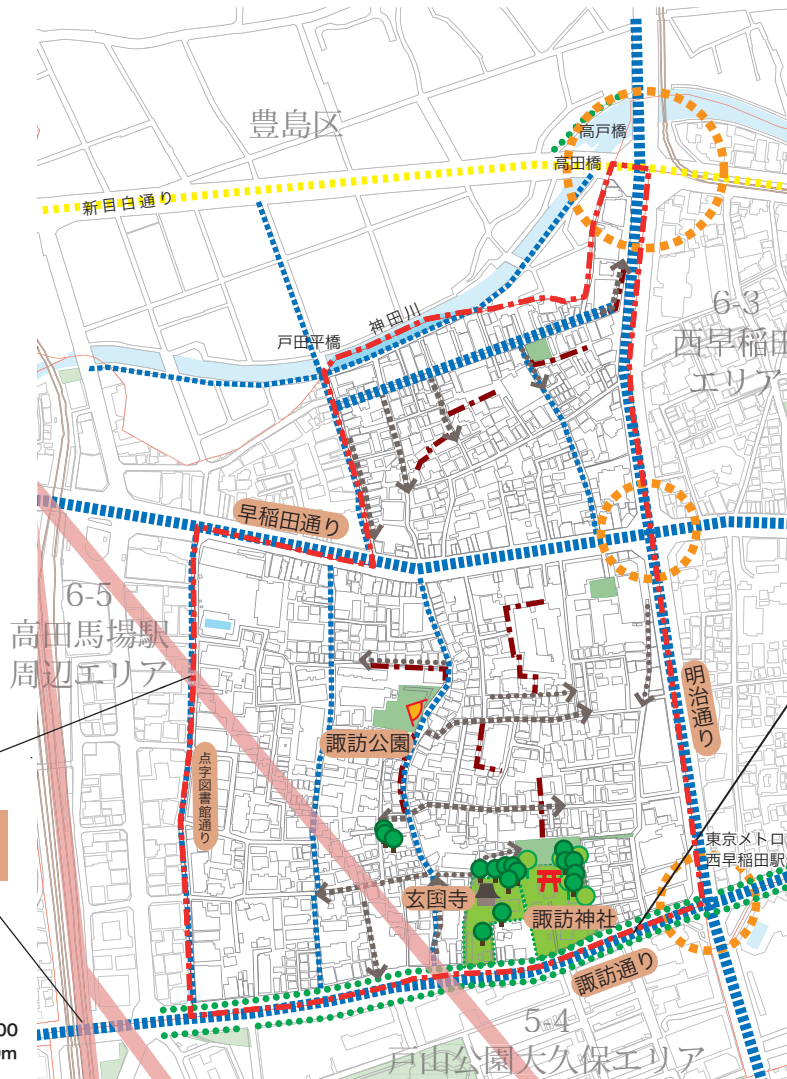
6-4 諏訪エリア

エリアの大部分は住宅地ですが、その中に周辺の会社員や学生を対象とした小規模な店舗が点在しています。周囲には、早稲田通り、明治通り、諏訪通りが通っています。諏訪通り沿いでは、諏訪神社の雰囲気も周囲にも落ち着きを与えています。また、明治通りには副都心線西早稲田駅が立地しています。



景観特性

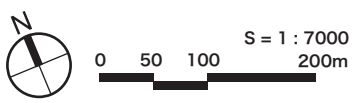
- 【凡例】
- 眺望点
 - 神社
 - 寺
 - 公園
 - 主な保護樹木 (区みどりの条例)
 - 重要なみどり (一部保護樹木を含む)
 - 連続するみどり
 - まとまったみどり
 - 景観上重要な道路
 - 幹線道路
 - 坂道 (下から上)
 - 階段 (下から上)
 - 景観上重要な交差点
 - 崖線
 - エリア境界



諏訪通りの沿道景観
起伏の激しい諏訪通り

諏訪通りは、江戸時代から残る起伏の大きい道路です。

明治神宮聖徳記念絵画館の眺望に関する景観誘導区域
広域的な景観形成ガイドライン 2-7聖徳記念絵画館の眺望の保全に関する景観誘導の内容に従う必要があります



1. 住宅地に点在する店舗



エリアの大部分は住宅地なのですが、その中に専門学校や中小のオフィスが点在しています。幹線道路から入った路地沿いには、小規模の飲食店があり賑わいのある景観となっています。

2. 諏訪神社と諏訪通り



鎮守の森である「諏訪の森」の中に、九世紀初めに創建の諏訪神社があります。神社のおもむきと森のみどりが、周囲に落ち着きと潤いを与えています。また、諏訪通りは街路樹のみどりが心地よい歩行者空間を創出しています。

3. 不整形な道路基盤



エリア内には、早稲田通りや諏訪通りをはじめ、江戸時代から残る道路が多数あります。そのため道路は地形に沿って緩やかなカーブを描いており、変化のある景観となっています。

高田馬場駅から続く賑わいと良好な住宅地が調和したまちなみへ

諏訪神社と諏訪通りを景観の核とし、落ち着いた景観をつくる。また、住宅と店舗が混在するまちなみを、全体として調和の取れた居心地の良い空間とする。

景観形成の方針

1. 住宅地とそこに点在する賑わい施設が調和した景観をつくる

景観形成の考え方

住宅地とそこに点在する賑わい施設が調和した景観をつくる。

具体的な方策

- 色彩や素材は、周囲と調和した落ち着いたものとする
- 道路沿いは樹木や草花などにより、歩行者にとって明るく潤いのある景観をつくる



住宅地の中に点在する賑わい施設

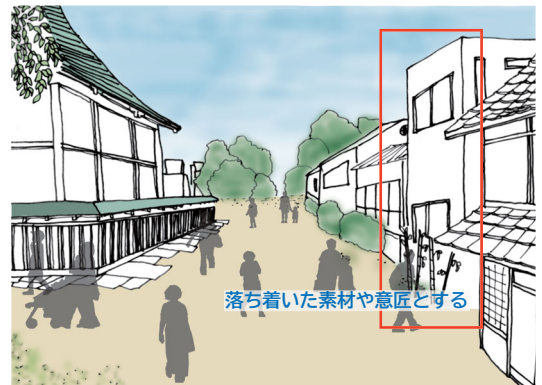
2. 寺社の周辺では落ち着いた景観をつくる

景観形成の考え方

諏訪神社周辺の落ち着いた雰囲気を保全するため、周辺でも神社に配慮した落ち着いた景観をつくる。また、諏訪通りについても、みどり豊かな落ち着いた景観をつくる。

具体的な方策

- 神社周辺の建築物は、神社の雰囲気と調和し、落ち着いた形態意匠、色彩計画及び照明計画とする
- 特に、境内から見える建築物等は、境内からの眺めに配慮した形態意匠、色彩計画及び照明計画とする
- 諏訪通り沿いでは、学習院女子大学の煉瓦塀の雰囲気と調和した、落ち着いた形態意匠、色彩計画及び照明計画とする



諏訪神社に調和した落ち着いた景観

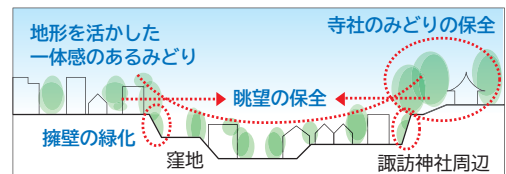
3. 起伏の大きい地形を活かした住宅地景観をつくる

景観形成の考え方

居住者だけでなく学生、会社員など多様な人々が利用している階段、坂道、路地などを、歩く人に快適なみどり豊かな景観とする。

具体的な方策

- 垣・さくなどは生垣や自然素材のものとする
- 擁壁の上部の垣・さくは高さを抑える
- 擁壁は周囲と調和し、圧迫感を与えないものとなるよう工夫する（壁面緑化を行う、自然素材を用いる、分節化を図るなど）
- 道路沿いには空地をとり、植栽帯を設ける
- 住宅のエントランス部分に照明を設けるなど、安心感のある住宅地の夜間景観を創出する



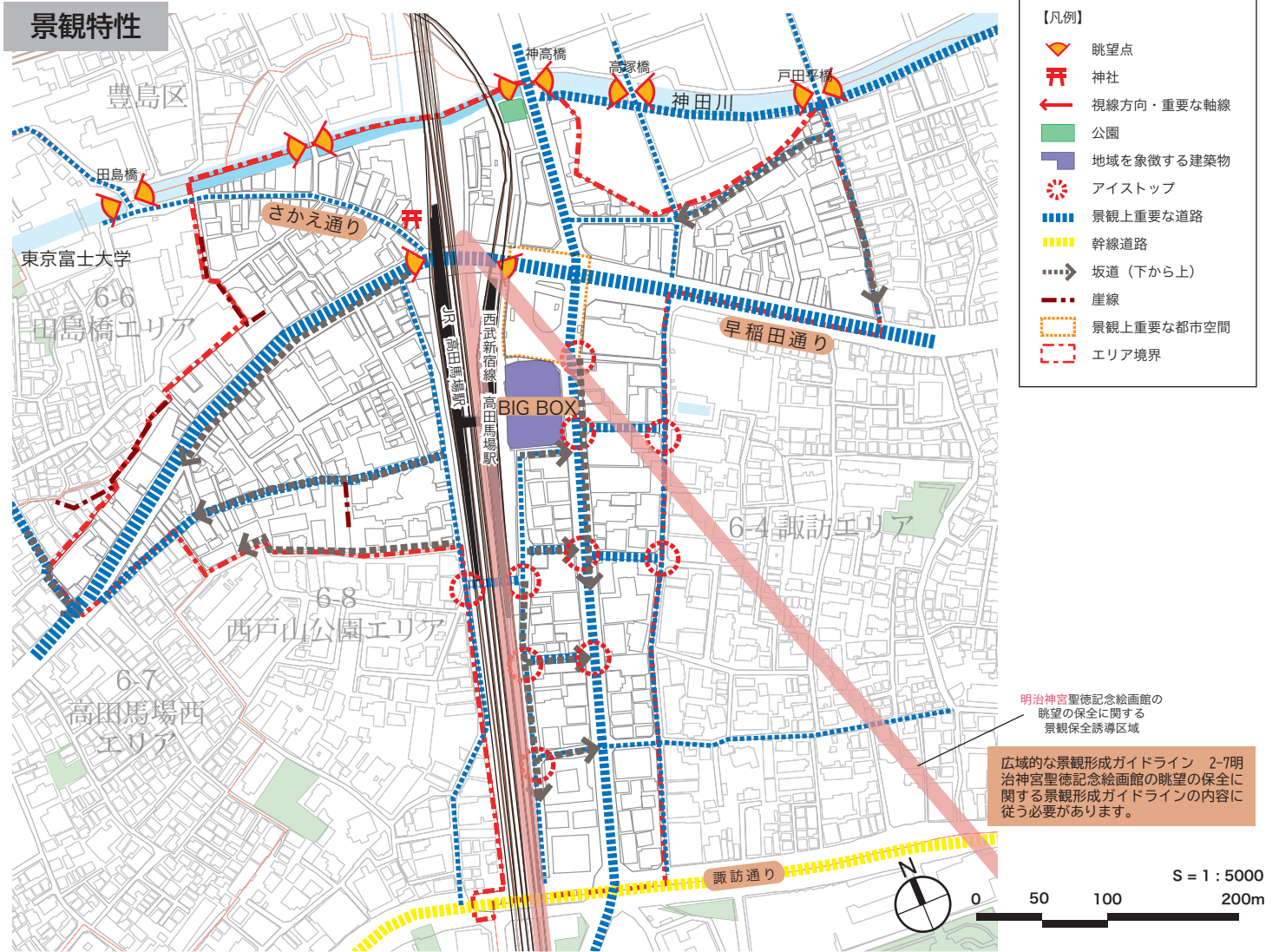
窪地の地形や寺社の緑地の活用



起伏の大きい住宅地の景観

6-5 高田馬場駅周辺エリア

学生街高田馬場の顔となるエリアです。駅を一步出ると、商業地らしい屋外広告物が一面に張り巡らされています。また、駅の東側では大学や専門学校等に流れていく大勢の人波があり、西側では、早稲田通りやさかえ通り沿いに店舗が軒を連ね、賑わいある景観となっています。



1. 駅の西側と東側の対比



高田馬場駅の西側と東側では、異なる特徴を持つ賑わい景観となっています。西側では、小規模な飲食店などが建ち並び、また、屋外広告物も一面に張り巡らされています。一方東側では、比較的規模の大きい店舗が多くなっています。

2. 駅前広場と人の流れ



高田馬場駅前の広場は、昼夜を問わず多くの学生や会社員が行き交う賑やかな景観となっています。今後は、多くの人波を受け止めるのに十分なゆとりある歩行者空間や、滞留空間を確保することが必要です。

3. 賑わいあふれる道路景観



駅周辺の道路沿いは、変化があり歩行者が楽しく歩けるような工夫をした賑わい空間となっています。特に、駅の北西側のさかえ通り沿いには、小規模な飲食店が建ち並び、周辺の生活者と密着した賑わい景観が形成されています。また、駅の北側には神田川が流れており、駅前とは違った落ち着いた景観が形成されています。

活力と賑わいあふれ、誰もが過ごしやすい学生街のまちなみへ

多くの学生や会社員、周辺居住者で賑わう駅前空間を、活力と賑わいあふれる地域の顔とする。

景観形成の方針

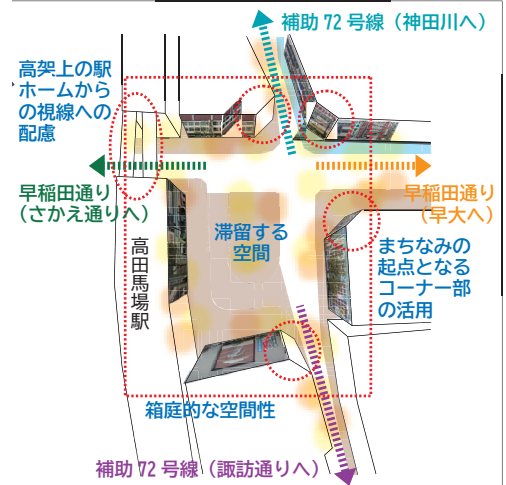
1. 賑わいの広がる高田馬場駅周辺の景観をつくる

景観形成の考え方

高田馬場駅を中心に、面的に広がる賑わいあふれる景観をつくる。

具体的な方策

- 活力と賑わいがあふれる駅前拠点にふさわしい形態意匠とする
- 壁面の位置を揃え、周囲のまちなみとの調和を図る
- 低層部は開放的な意匠とし、賑わい空間となるよう工夫する
- 1階店舗は開口部を大きくとり、ショーウィンドウ等を設置する
- 夜間景観に配慮し、シャッターは透過性の高いものとする
- 夜間景観に配慮した照明計画とする



駅前広場から広がる性格の異なる大通り

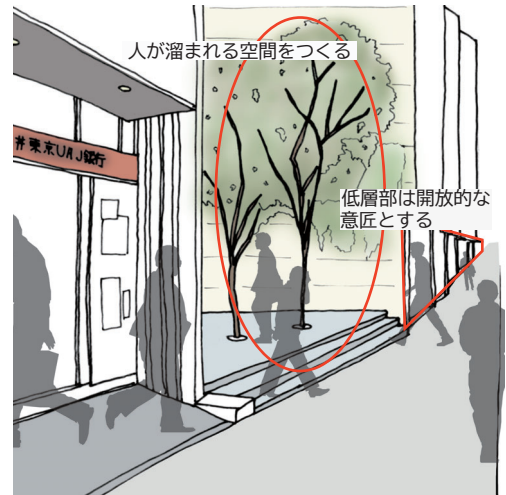
2. 活気あふれ居心地の良い駅前景観をつくる

景観形成の考え方

多くの学生の行き交い、若さと新しさが飛び交う高田馬場の顔として、居心地の良さともままりを感じさせる景観をつくる。

具体的な方策

- 駅前広場に対して正面性を持った意匠とする
- 低層部には、人が溜まれる空間をつくる
- 広場に面する場合は、連続する賑わいを創出する



たまり空間×早稲田通り

3. 個性ある幹線街路と商店街の景観をつくる

景観形成の考え方

早稲田通り沿道やさかえ通り沿道を学生街にふさわしい**个性的**で活力と賑わいあふれる景観とする。

具体的な方策

- 早稲田通り沿道では、低層部に人が溜まれる空間をつくり活力ある賑わい空間を創出する
- さかえ通り沿道では、周囲の間口の幅に合わせるか、分節化を図り、細やかな賑わい空間を創出する
- 神田川沿道では川に対して正面性のある意匠とし、オープンテラスなどによって開放的な空間を創出する

高田馬場駅周辺では、高田馬場のシンボルとなる駅前空間を創出する

- 周囲の建築物と一体となり、活力あふれる居心地のよい駅前広場を整備する
- ゆとりある滞留空間と歩行者動線を確保する
- 景観にも配慮したユニバーサルデザインを推進する



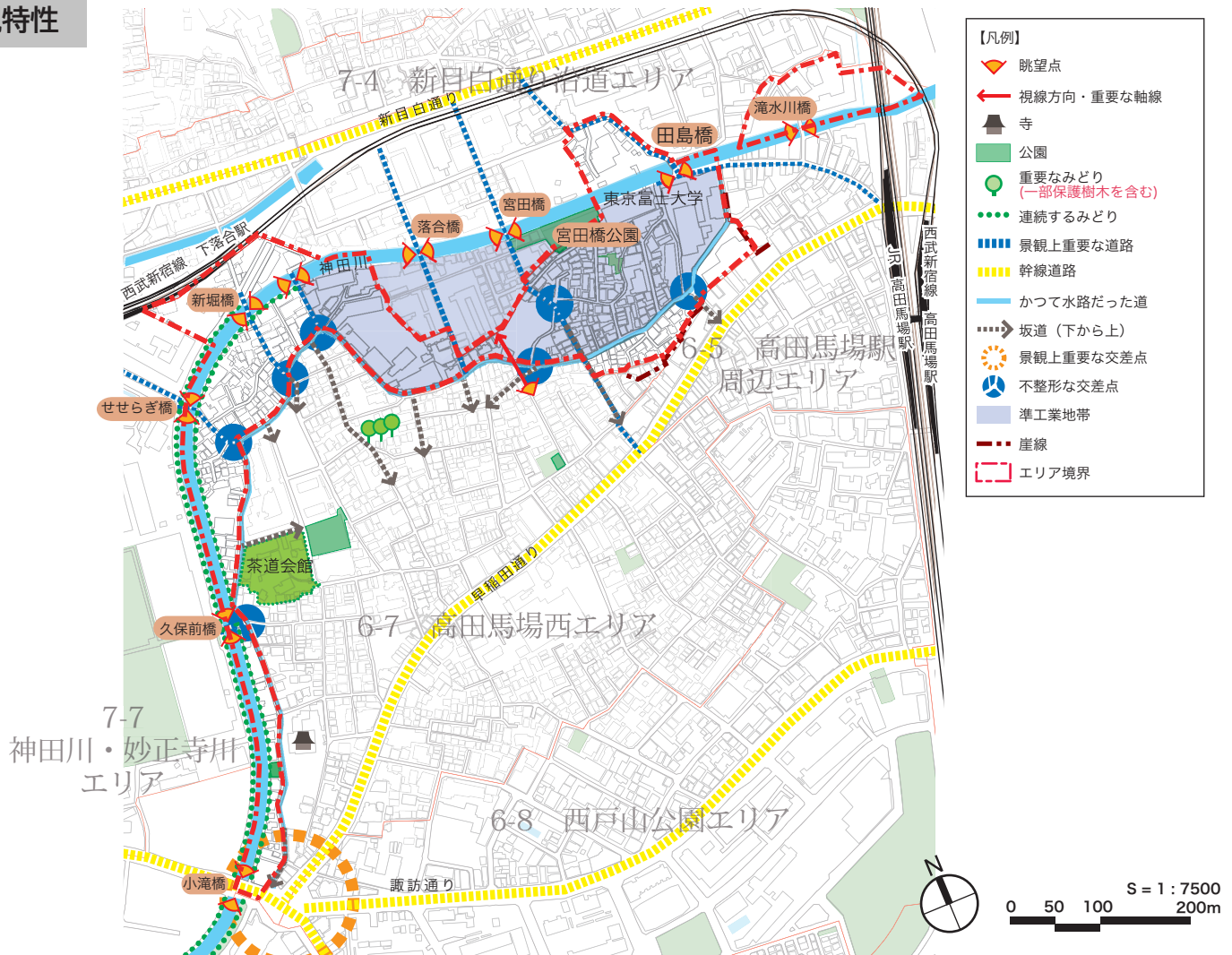
細やかな賑わい空間が続くさかえ通り沿道

6-6 田島橋エリア

神田川沿いの低地に広がるエリアです。エリア内にはもともと神田川の水路であった道路が数箇所あり、緩やかなカーブを描きながら変化のある景観となっています。また、エリアの一部の用途地域は準工業地域であり、古くから工場が立地していました。近年は住宅も多くなり、混在した景観となっています。



景観特性



1. 景観資源である神田川



神田川沿いには遊歩道がありますが、一部途切れてしまっている部分があります。神田川自体は、コンクリート三面張りとなっており、その修景のためにも、川沿いでの遊歩道の整備、みどりの創出が必要です。

2. 神田川沿いの用途の混在



エリアの大部分は準工業地域となっています。そのため、エリア内には工場や倉庫等が多数あります。近年エリア内に増えてきた、住宅等に対する配慮が必要です。

3. 旧水路沿いの景観



神田川の旧水路などであった道路が、エリア内に数箇所あります。それらは、いずれも緩やかなカーブを描いています。また、それらの道路に沿って急な勾配が生じているため、南側に坂道や階段等が現れ、地形を感じる景観となっています。

水とみどりを活かした潤いあふれるまちなみへ

神田川沿いの眺めを活かし、住宅地と工場が調和したみどり豊かで潤いあふれる景観をつくる。

景観形成の方針

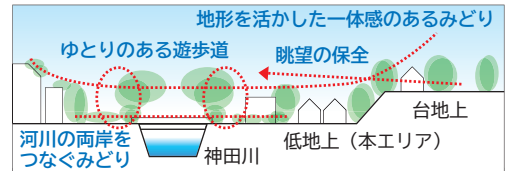
1. 潤いあふれる河川景観をつくる

景観形成の考え方

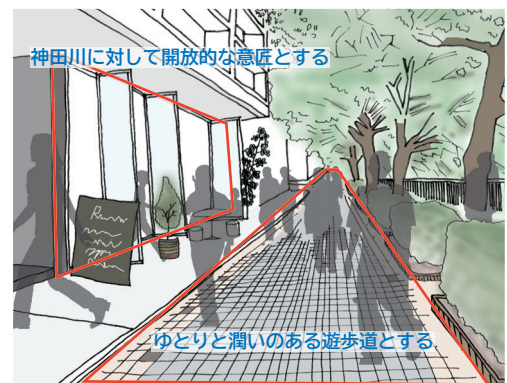
本エリアの景観形成の軸となる神田川沿いにおいて、水とみどりと調和した潤いあふれる河川景観をつくる。

具体的な方策

- 河川沿いの建築物は河川に対して正面性をもたせる
- 色彩や素材は水やみどりと調和したものとし、特に彩度の高いものは避ける
- 橋や対岸からの眺めに配慮し、壁面の分節化を図り、長大な壁とならないようにする
- 直接河川に接する場所では、設備機器等は見えないよう植栽等で修景する
- 橋や遊歩道の整備に際しては、色彩や素材、植栽などに十分配慮し、可能な限り親水空間をつくるなど良好な河川景観を積極的に創出する
- みどりのライトアップなどにより魅力的な水辺の夜間景観を創出する



神田川や周辺の資源との調和



潤いあふれる河川景観

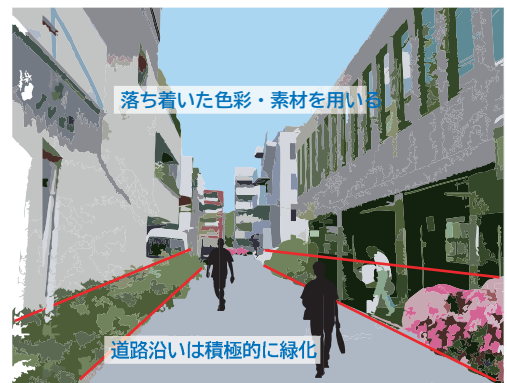
2. 住宅地と工場とが調和したまちなみへ

景観形成の考え方

エリア内に混在する住宅地と工場とを調和させた景観形成を図る。

具体的な方策

- 色彩や素材は、周囲と調和した落ち着いたものとする
- 道路沿いには十分な広さの空地を設け、樹木や草花などにより、歩行者にとって明るく潤いのある景観をつくる
- 道路沿いは積極的に緑化する
- 道路沿いに照明等を設置するなど、安心感のある夜間景観を創出する



住宅地と調和する工場施設

3. みどりあふれるまちなみをつくる

景観形成の考え方

一部の河川沿いには遊歩道等でみどり豊かな景観があるものの、まちなみ全体としてはやや緑量が少ない。河川周辺では積極的にまとまったみどりを創出する。

具体的な方策

- 大規模な計画では、まとまったみどりを創出する
- 中・小規模の計画では、道路沿いや屋上・壁面で積極的に緑化を行う



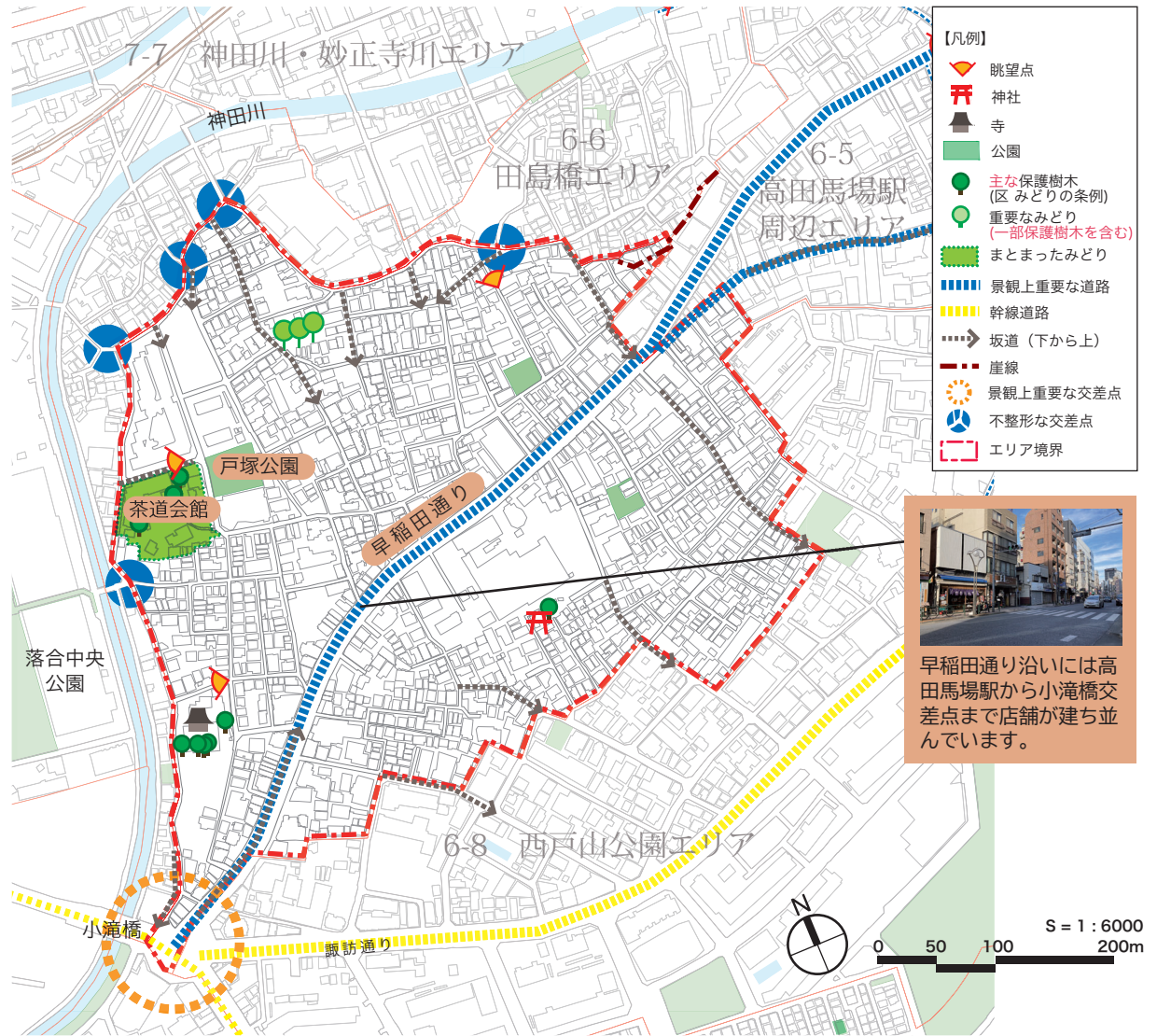
みどりあふれるまちなみ

6-7 高田馬場西エリア

早稲田通りがエリアの中央を東西に通っています。沿道は、高田馬場駅周辺の繁華街の賑わいが落ち着き、周辺居住者の生活に密着した賑わいへと変化してきます。また、幹線道路から一歩中に入ると、台地上の落ち着いた住宅地が広がり、身近なみどりのあふれる路地景観となっています。また、茶道会館や戸塚公園付近は周囲より小高くなっており、開放感ある眺めを得ることができます。



景観特性



早稲田通り沿いには高田馬場駅から小滝橋交差点まで店舗が建ち並んでいます。

1. 台地上の路地景観



早稲田通りの南側には路地が広がっています。そのいずれも、庭先からみどりがあふれ出し、良好な路地景観となっています。塀の安全性確保や細街路整備と同時に、現在の景観を保全していく、工夫が必要です。

2. 生活感あふれる早稲田通り



高田馬場駅周辺の喧騒から遠ざかり、同じ早稲田通りでも落ち着きのある景観となっています。小規模な店舗が建ち並び、周辺居住者の生活と密着した賑わい景観となっています。

3. 緩やかな高低差のある地形



エリア全体が、北西側へと向かって下がる斜面地となっています。茶道会館や戸塚公園付近は、周囲より小高くなっており、北西側へと空の広がりを感じる眺めを得ることができます。

落ち着いた住宅地のみどり豊かなまちなみへ

起伏に富んだ地形を活かし、みどりあふれる路地景観と落ち着きある住宅地のまちなみを創出する。

景観形成の方針

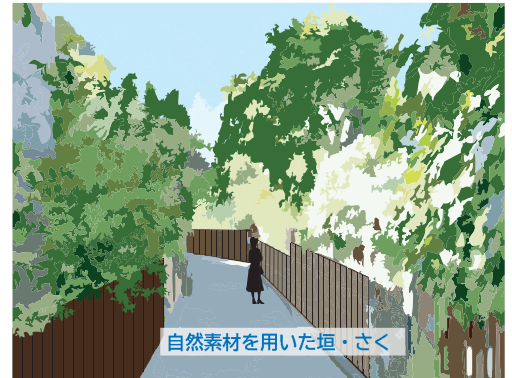
1. 落ち着いた住宅地のみどり豊かな景観をつくる

景観形成の考え方

落ち着いたみどり豊かな住宅地景観を保全していく。

具体的な方策

- 景観上重要な既存樹木を保全する
- 色彩や素材は、周囲と調和した落ち着いたものとする
- 垣・さくなどは高さを抑え、生垣や閉鎖的でないものとする
- 道路沿いは積極的に緑化を行う
- エントランス部分や植栽部分に暖かみのある照明を設置するなど落ち着いた住宅地の夜間景観を創出する



落ち着いたみどり豊かな住宅地

2. 早稲田通り沿道を活気ある賑わい空間とする

景観形成の考え方

早稲田通りを周辺住民の生活道路として、賑わいある快適な歩行者空間をつくる。

具体的な方策

- 壁面の位置を揃え、周囲と調和を図る
- 間口は現在の規模を継承するか、もしくは、分節化を図る
- 低層部は賑わいを感じられるような開放的な意匠とする
- 賑わいを演出しつつ、夜間でも快適に歩行できる照明計画とする



活気ある早稲田通り沿道

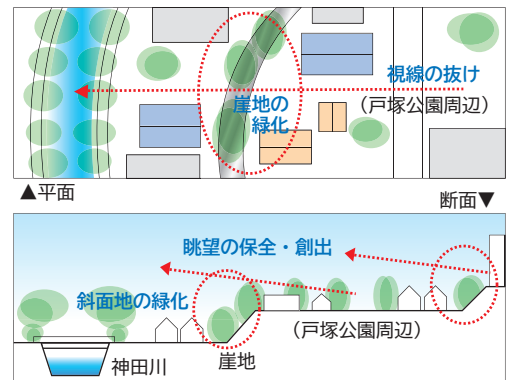
3. みどり豊かで空の広がりを感じる景観を保全する

景観形成の考え方

台地上に位置する戸塚公園や茶道会館周辺のみどり豊かで空の広がりを感じる景観を保全する。

具体的な方策

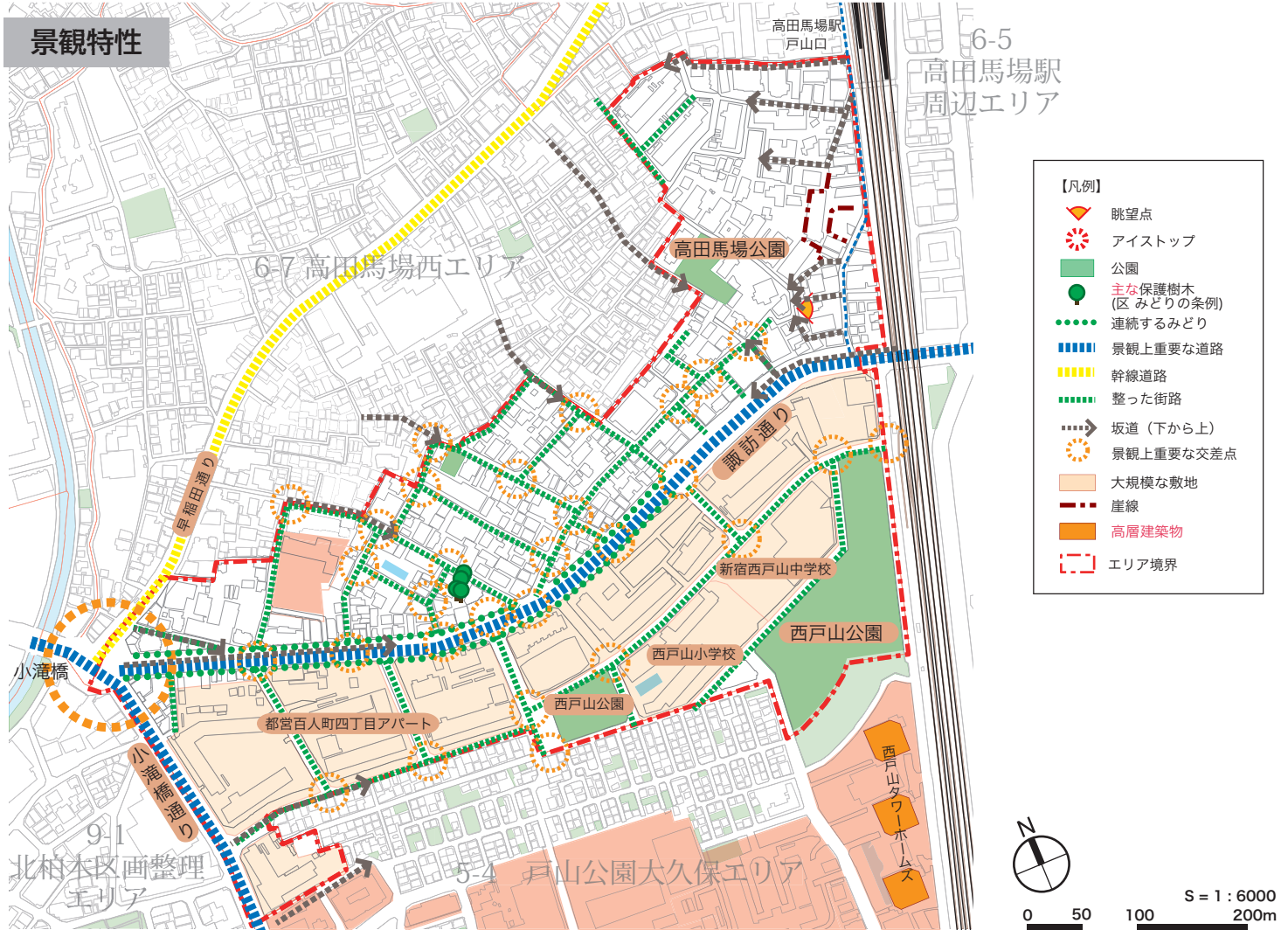
- 戸塚公園や茶道会館周辺のみどりを保全・創出する
- 北西側に向かって広がる台地上からの眺望を保全する
- 斜面地上では積極的に緑化を行う
- 神田川へのつながりを感じさせるような連続性のあるみどりを創出する



高低差と立地の特性がもたらす眺望

6-8 西戸山公園エリア

エリアの中央を東西に諏訪通りが通っています。諏訪通りは緩やかなカーブを描いているため、その街路樹が常にアイストップにあり、心地よい幹線道路の沿道景観となっています。また、北側は台地上にみどりあふれる良好な住宅地が並び、南側には都営住宅や小中学校などの大規模な建築物群が建ち並んでいます。



1. 南北をつなぐ諏訪通り



北側の台地上住宅地と南側の大規模な建築物群の間に、諏訪通りは通っています。南北で全く別の景観となっていますが、両者を諏訪通りの街路樹がつかないでいます。

2. 大規模建築物群の連なり



エリアの南側では、老朽化した中層住宅が高層住宅へと建て替わり、景観の更新が行われました。諏訪通りからセットバックし既存樹木を残したことで、歩行者への圧迫感が軽減され、良好な歩行者空間が維持されています。

3. 落ち着いた住宅地



エリアの北側には、比較的規模の大きい低層の住宅が建ち並んでおり、道路沿いの豊かな植栽により落ち着いた雰囲気となっています。また、これらの住宅は、高低差の大きい地形のため坂道に面していることが多く、変化のある景観となっています。

諏訪通りでつながる低層住宅地と大規模建築物群が調和したまちなみへ

北側の台地上に広がる落ち着いた住宅地と南側の大規模建築物群を諏訪通りの街路樹でつなげ、みどり豊かな落ち着いたまちなみとする。

景観形成の方針

1. 西戸山公園と諏訪通りを中心として

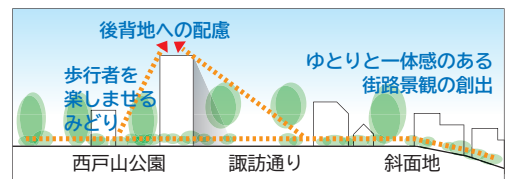
みどり豊かな景観をつくる

景観形成の考え方

西戸山公園周辺と、北側の低層住宅地と南側の大規模建築物群をつなぐ諏訪通り沿道を、みどり豊かで快適な歩行者空間とする。

具体的な方策

- 壁面の位置は後退させ、道沿いにゆとりをつくる
- 壁面は連続しないように、適切な分節化を図る
- 街路樹と調和した緑化を推進する
- 西戸山公園周辺、**諏訪通り**及び**接続道路沿道**では、積極的に緑化を行う



諏訪通りを介したまちなみの調和

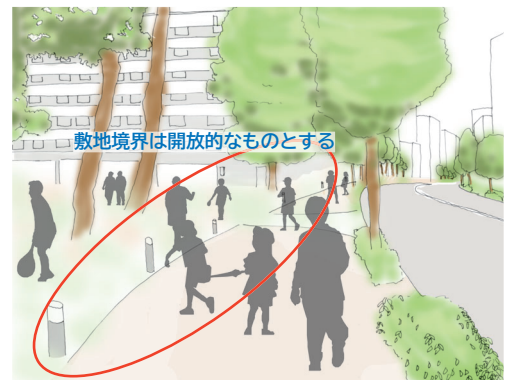
2. 大規模建築物群と周辺の低層住宅地を調和させる

景観形成の考え方

歩行者や居住者にとって**親しみやすく**快適な景観となるよう、エリア南側の高層建築物と周辺の低層住宅地との調和を図るとともに、**開放的な歩きやすい街路空間をつくる**。

具体的な方策

- 色彩や素材は、周囲と調和した落ち着いたものとする
- 道路沿いには十分な広さの空地を設け、樹木や草花などにより、歩行者にとって明るく潤いのある景観をつくる
- 屋上緑化や壁面緑化を積極的に行う
- 垣・さくなどは高さを抑え、生垣など自然素材を用いる



大規模施設と沿道の一体化

3. 変化に富んだ地形を活かした落ち着いた景観をつくる

みどり豊かな景観をつくる

景観形成の考え方

エリア北部の住宅地では変化に富んだ地形を活かした、**落ち着いた景観**を創出する。

具体的な方策

- 緩やかな変化のある地形の魅力を損なわないよう、大規模な地形の改変は避ける
- 色彩はみどりと調和した落ち着いたものとし、特に彩度の高いものは避ける
- 外壁の素材は、自然素材のものとする
- 垣・さくなどは高さを抑え、生け垣など自然素材を用いる
- T字路などアイストップとなる場所では、建築物の意匠的な配慮や緑化を行う
- 擁壁は周囲と調和し、圧迫感を与えないものとなるよう工夫する（壁面緑化を行う、自然素材を用いる、分節化を図る）



変化のある地形を活かした景観